



6.15 を取り戻そう！ 25-2 中央委員会を開催！

3月17日、愛知県名古屋市内で、25期第2回中央委員会を開催しました。中央委員会では全国から中央委員が結集し、2012年度の運動総括と、2013年の活動方針が論議されました。今回の中央委員会では、これまでとは趣向を少し変え、中央委員全体が方針を自分のものにしっかりと内実化するために「討論」の時間を多く設け、活発な議論がなされました。

昨年韓青は、12月の大統領選挙における、進歩的政権交代に向けて、熱誠的に運動を展開してきました。4月総選挙、12月大統領選挙の在日同胞の投票率を高め、選挙争点として6.15共同宣言の実践を浸透させるため、全国の同胞に対してアンケートを実施しました。結果、在日同胞の多くが祖国の統一と在日同胞の民族教育の発展を願っているということが明らかになり、今後の運動の指標を少なからず得ることができました。また、地域活動を展開することによって、活動家ひとりひとりが鍛錬されていったことも大きな成果といえます。

しかし、結果として進歩的政権交代は達成することが出来ず、在日同胞の投票率も伸び悩みました。私たちは、その要因として韓国政府の長年にわたった在日同胞の棄民化政策を挙げるとともに、十分に広報活動をしきれなかった私たち自身の努力不足も真摯に総括することとなりました。

今年度の方針は、そのような総括の下、より意欲的な方針論議をしていきました。

なによりもまず、私たちが考えなければならないのは、今年誕生した朴槿恵政権といかに対峙していくか？ということなのです。2月に就任してから一ヶ月、韓国社会は混乱の度を深めています。もとより半数近く



の反対勢力を抱えている性質上、行政の中心である組閣すらままならない状況であり、まともな政権運営が出来ていません。また、南北関係は北朝鮮敵視政策によって前政権となんらかわらない敵対的な姿勢を続けており、国連制裁決議や韓米軍事演習の強行によって、朝鮮半島の緊張は極度に高まってきています。

このような窮地を打開するためには、やはり6.15共同宣言、10.4宣言の着実な履行が必要です。私たちは、昨年培った成果を土台に、一人でも多くの在日同胞、良心的な日本人の人々と接触し、「平和と統一を実現するための6.15、10.4」を支持するメッセージを集めていくことにしました。また、そのような運動を力強く展開していくためにも、より一層の組織強化を全力で果たしていくことも共有していきました。

全体的に前向きな意見が多く、活発な中央委員会となりました。終了後は交流会を開催し、今回合意した方針を各地方で力強く実践していくことを決意しました。

第49回全国冬期講習会 スノーフェスティバル 2013



私たち韓青では去る3月1日から3日にかけて「スノーフェスティバル 2013」（第49回韓青全国冬期講習会）を長野県志賀高原で開催しました。「切り開こう 2013！祖国とともに！民族とともに！」という主題で開かれた今回の講習会には、全国各地から多くの同胞青年が参加し、普段味わうことの出来ない同胞どうしの空間で、スキーやスノーボード、レクリエーション、民族文化発表、そして熱いディスカッションを通じて交流と親ばくを深めました。

開会式に先立って新たな韓青のテーマソングである『통일의 길로 (トンイレ キルロ、統一の道へ)』のノレ指導を兵庫県本部が行い、指導映像とサムルノリ（民族楽器）の融合した迫力のオープニングから三日間が始まりました。開会式ではオリエンテーション、班発表の後は、アイスブレイク企画を行い、一気に参加者の距離は近づきました。昼間はゲレンデでのレクリエーション、スキーやスノーボードを満喫し、そして夜にはA・Bグループに分かれて講演企画です。新規参加者が中心のAグループは張友則・三重県本部委員長が「私が生きる未来～ともに民族的に生きよう！」というテーマで自身の経験をもとに講演をし、幹部が中心のBグループは朴明哲・副委員長が「韓青史」をもとに講演を行いました。



2日目は文世賢委員長による全体記念講演「この時代に生きる私たち」が行われ、在日同胞の歴史性と政治性が否定されている現状やそれを生み出している根本的な構造への認識、打開し社会変革するための自己変革と他者との共有などを熱く語りました。どちらのグループも在日同胞青年の生き方や未来の社会像について、



「本当に民族的に生きるためには」というテーマについて、班別ディスカッションを行い、答えを求めていきました。年齢や経験、地域を越えて深夜、朝まで討論という姿もちらほらで、「同胞青年の未来はやはり韓青にあり！」ということを実感する、有意義な時間でした。

メインの韓青文化マダンでは、東京本部のメンバーによるダンス「韓青スタイル」を皮切りに、大阪「構成劇」、愛知「サムルノリ」、京都「ノレ・アンサンブル」、兵庫「律動」、三重「プンムル」など各本部が創意



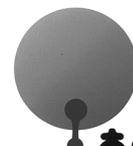
韓国語教室
「ムグンファ」

見学・体験レッスン随時受付！

担当：金梨恵 (私・伊)
080-6510-1973

韓国語教材専門インターネット書店

ハンゲルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

工夫や情熱あふれる文化発表を披露し、大きな感動と民族文化の素晴らしさを共有しました。また、民族的に生きることや朝鮮半島をめぐる情勢などを表現した班別の寸劇披露、民族の鼓動と魂が融合したエンディングの群舞など、最高の民族的な盛り上がりを見せました。

3日目の閉会式では多くの参加者から「今回の冬期講習会を契機に本名で生きていきます」「在日同胞として本当の自由を勝ち取るために、民族的に生きていきます」という力強い感想、具体的な決意表明があり、参加した各自が民族的に生きるために何かをつかめた講習会であったと確認できました。

最後に「在日同胞社会や祖国の未来をつくるのは私たちが。50回目を迎える来年の冬期講習会のスタートは今切られた。今日の決意を明日の実践にして、ともに前進しよう！」という文世賢委員長の力強い閉会あいさつで、講習会は幕を閉じました。



韓青神奈川 OB

郭 亨 澤

韓青東京 OB

崔 洋 國

私たち韓青では地域ごとにも様々な課題に対して実践活動、取り組みを行っています。この「活動の現場から」のコーナーでは、特色ある地域の実践活動に参加した盟員から、どのような気持ちで参加したのか、どのような課題があるのか、感想や決意などの投稿記事を掲載します。栄えある一回目は、政治一番地・東京本部からの投稿が届いています。今回は猛威を振るっている日本の差別・抑圧、排外主義に対するアクションに関して、二つの報告を紹介します。



新大久保のヘイトスピーチに相對して-キム・サエ

新大久保で度々行われてるというヘイトスピーチを見に行った。

通りの向こうから「朝鮮人は皆殺し」とか「除鮮」という見るに耐えないプラカードと日の丸を掲げた団体が警察に擁護されながら歩いてきた。車のスピーカーからは「朝鮮人はクルクルパー」などと、あまりに

も低レベルな暴言を大の大人ががなり立てていた。「在特会」が「朝鮮人はさっさと帰れ!」という、ある「在特会嫌い」の団体は彼らをメガホンで彼らと同じように口汚く罵り、「在特会は帰れ!」と大声で応戦した。新大久保は「帰れ帰れ」と騒然とした。

どっちが味方でどっちが敵かもよくわからなかったし、そもそも味方がいるのかすらも分からなかった。私は、「在特会」はもちろんだが、同じように「在特会」を口汚く罵る人た

ちを見て、この人達は楽しんでるんじゃないかと思った。人を大声で罵倒する事が快感なんじゃないだろうか? 「在特会」のあまりにも酷い暴言も、それを理由に「正義」を盾に吐く暴言も、結局は同じじゃないんだろうか。新大久保のデモを見て私は、在日が日本社会のストレスのはけ口にされている気がした。本当に在日の歴史を理解してあのヘイトスピーチに反対するならもっと違う形がある気がする。それを私は見つけたいと思った。

「3・31 全国集会&パレード」に参加して-ソン・トンギ



東京の日比谷野外音楽堂で行われた「朝鮮学校は無しにNO! すべての子供達に学ぶ権利を! 3・31 全国集会&パレード」に参加しました。朝鮮学校の生徒、先生、父母会、日本人

の団体と韓国から市民団体が各アピールを行った集会の後、東京の中心地をパレードしました。

韓国国内からは支持団体が数多く紹介され、そのうち昨年私が仲間とともに故国訪問に行くことができた豆乳事業本部の幕もありました。

政府が公然と民族差別政策をし、高校生が至極当然のことを思い思いに話している会場の外で、いい年した大人が罵詈

雑言を拡声器で撒き散らしている異常な社会で暮らしているかなければならないと思うと気持ちも暗くなりました。しかし、私は主義主張の差異はあれど、それを超えて、様々な人が集まり三千人を越える人で埋め尽くされた会場を見たときに、大きな心強さを感じました。この日本社会が進みつつある方向に対して、大きな声をあげることができたのは、より強い自信になったと思います。

東京から、ニューヨークから、世界を駆ける反戦平和の声！

韓米合同軍事演習を中止し、今こそ朝米対話を！

現在、朝鮮半島情勢は一食触発の緊張状態にあります。韓国とアメリカは対北侵略を念頭においた世界最大規模の合同軍事演習を展開中であり、これに対し北朝鮮は停戦協定や南北不可侵合意の白紙化を宣言し、南北状況を戦時状況とまで規定しています。

ここでは、私たち韓青をはじめ海外同胞が行った合同軍事演習への抗議行動の様子をお伝えします。

【韓統連・韓青・女性会、駐日アメリカ大使館で軍事演習中止を要求】

「抗議行動するならJ Tビルの前で…」。

嫌味たっぷりの警察官の言葉が今でも脳裏に浮かびます。

私たち韓青は3月15日、韓統連・女性会の先輩とともに韓米合同軍事演習「キー・リゾルブ」、「フォー・イーグル」の即時中止を求めて駐日米国大使館（東京・港区）で要請および抗議活動を行いました。

しかし、大使館側は面談はおろか抗議文の受け取りも拒否！極めて不当な対応に私たちが抗議行動の意志を示したところ、冒頭の警察官の発言。

ビルはあっちだよ、と言わんばかりに警察官が指差すほうを見ると、J Tビルは大使館から百メートル以上の遠さ！（筆者にはまったく見えませんでした…）どうしても大使館に聞こえない・見えない場所に追っ払いたいわけですね。

「話にならない」と改めて「抗議行動のための抗議行動」を行い、大使館前での抗議行動をやりきりました。

抗議行動では、大使館の正門前で『米国政府は韓米合同軍事演習を即時中止し対話に乗り出せ！』と書かれた横断幕とプラカードを掲げて抗議行動を展開し、韓統連・孫亨根議長が抗議文を読み上げました。

抗議文では、合同軍事演習の背景には米国の一貫した対北敵視政策があり、米国政府が対北敵視政策を転換し、北朝鮮との対話に臨み平和協定を締結しなければならないと主張しました。



▲米国大使館前で抗議する韓統連メンバー

【在米同胞も軍事演習中止を要求！】



▲抗議行動する在米同胞

3月19日、「6・15共同宣言実践ニューヨーク地域委員会」、「在米同胞全国連合会」、「祖国統一汎民族連合（汎民連）在米本部」、「ノドゥットル」をはじめとする在米同胞が、米国人の反戦運動団体「ANSWER」らのメンバーとともに、ニューヨーク・マンハッタンのタイムズスクエアにある米軍募兵所前で韓米合同軍事演習中断を求めるデモを行いました。

なかには自由の女神のコスプレで抗議行動をするメンバーもあり、退勤時間のニューヨーク市民の関心を集めました。



▲自由の女神で抗議する参加者

【停戦協定60年特別企画】

訪れない戦後～朝鮮戦争

Vol.1 解放と分断～朝鮮戦争前夜

同族同士が銃を突きつけ、殺しあう…今から60年前、朝鮮半島ではこの悲劇が起こりました。全土が戦場となり、数百万人の犠牲者、1000万人の離散家族を生んだ朝鮮戦争…

今年が「撃ち方やめ」という停戦協定締結から60年を迎えるにあたり、今号より年特別企画を連載します。今も「戦争状態」が続く朝鮮戦争の歴史と現代的意義をお伝えできれば幸いです。

解放もつかの間、持ち込まれた冷戦



▲解放を喜ぶ独立運動家と民衆たち

1945年8月15日、待ちに待った祖国解放 - 光復節を迎えました。歓喜にあふれる同胞たちは、新しい独立国家への希望を膨らませました。著名な独立運動家・呂運亨（ヨ・ウンヨン）は9月6日に「朝鮮人民共和国」の樹立を宣言し、民族独立の意志を示しました。

しかし9月8日、仁川に上陸した米軍は北緯38度以南に対して軍政を敷き、「朝鮮人民共和国」を否認しました。そして警察、官僚機構など植民地時代の統治機構をそのまま利用し、協力者として手っ取り早く親日派を起用してしまいました。一方、北側にはソ連が進駐し、こうして米ソ

による冷戦構造が朝鮮半島に持ち込まれることになりました。

45年12月、米英ソの3外相会談で朝鮮半島の「信託統治」に合意します。これは、米ソ共同委員会を後見人に朝鮮民主主義臨時政府を構成し、5年の信託統治をへて朝鮮を独立させるというものでした。当初、米国は30年近い信託統治が必要と訴えますが、早期独立を望むソ連の意向が入れられて、5年の信託統治で合意します。

これに世論が沸騰します。また東亜日報がトップ記事で「ソ連は信託統治を主張、米国は独立を主張」などと掲載し、歪曲した世論も作られました。一方、冷戦が深まるなか米ソ共同委員会は難航し、47年6月ついに決裂します。ここで米国は当初の約束をふみにじって、朝鮮問題を国連の場に持ち込みます。そして48年2月、米国は国連小総会で「国連臨時朝鮮委員団が接近しうる地域で総選挙」すなわち南側だけの単独総選挙案を可決してしまうのでした。

これに対しすべての人々が分断を憂慮し、単独選挙反対・南北協商を求めて立ち上がります。48年4月にはピョンヤンで政党・社会団体代表者連席会議が開催、済州島でも単独選挙に反対して大規模な武装蜂起が起こります（4・3民衆抗争）。しかし、民衆の声にも関わらず単独選挙は強行され、48年8月15日、南側で大韓民国、9月9日には北側で朝鮮民主主義人民共和国が成立します。

こうして南北に分断国家が誕生し、李承晩大統領が勝共統一を唱えるなか、戦争の足音が徐々に大きくなっていきました。



▲連席会議のため38度線を越える金九(私・右、中) 右が次男の金信、左が鮮干鎮



情勢 NEWS

大統領の手帳は「デスノート」？ ～混迷する韓国新政権～

2月25日、朴槿惠新政権は正式に発足しましたが、人事で早くもゴタついています。その結果、閣僚が揃わないまま最初の国務会議（3/11）を強行せざるを得ず、早くも2回目の国民謝罪が行われました。

韓国大統領の人事権は、国務総理（首相）への指名をはじめ、国務委員（大臣）、行政機関、準行政機関、公共機関、公社の責任者の任命など、事実上5～600人に対して行使できると言われています。

首相は、国会の同意（「首相任命同意案」の可決）の下で大統領に任命されますが、大臣は、首相の提案で大統領が任命し、国会の同意は必要ありません。首相も大臣も国会議員である必要がないため、大臣は大統領のお気に入りであるなら、どんな人物でも任命することができるのです。そのため金大中大統領の時代に、大臣候補者に対して人事聴聞会を開くことができる権限が国会に与えられました。

新政権が発足するや、ものの1ヶ月で、大統領の指名を受けた政権要職者たちが、さまざまなスキャンダルから、就任辞退や辞任に追い込まれています。

最初のつまづきは、重要な国務総理人事でした。1月24日の記者会見で、朴大統領が金容俊・政権引継ぎ委員会委員長を国務総理に指名するや、記者たちから失笑が出たほどでした。というのも、不動産投機に関する不法性が指摘されている人物だったからです。結局、1週間後に自ら辞退をしました。

続いて2月13日に、憲法裁判所長に任命された李東洽候補者が、公金横領の疑惑で辞退。3月4日には、朴政権の目玉として新設予定である「未来創造科学部」の長官に任命された金鍾勳候補者も、辞退を表明しました。この人物は、CIAが設立した軍産複合企業で活動した経歴も持つ米国籍保持者の大富豪で、米国籍を放棄するために支払わなければならない莫大な“国籍放棄税”が理由の一つとされています。

●対国民謝罪文を読み上げる大統領府スポークスマン（三月三〇日）



○大統領自身の謝罪でもなく、秘書室長の謝罪をスポークスマンが代読したこと、謝罪文がたったの六七文字で、わずか十七秒の読み上げであったことから、これ自体も大ヒンシユクをかっつている。

さらに18日には、黄喆周・中小企業庁長内定者が公職者倫理法による保有株の売却を嫌って、21日には金学義法務次官が、建設業者から性的接待を受けた疑いで、それぞれ辞退と辞職をしました。

30種ほどの疑惑を抱え“疑惑のデパート”と言われ続けながらも粘っていた金秉寛国防部長官候補者も、22日について辞退を表明しました。兵器購入に関連した不正が指摘され、「武器商人に国防を任すのか」と国民から強い反発を受けていました。

このように繰り返される不良人選の原因として、朴大統領が自身の手帳とにらめっこをしながら、重要人事をたった一人で決定してしまうためだと分析されています。そのため、政界では「大統領の手帳はデスノートだ」と揶揄されています。（ノートに名前が書かれると死ぬという物語の漫画の題名から）

結局、維新残党である守旧保守勢力にはこのレベルの人材しかおらず、そして、政治家の資質に対する道徳性や倫理観といったものが70年代の維新時代の価値観のままできて、長きにわたる民主化闘争によって国民に芽生えた民主主義の価値観とのギャップに苦しんでいるようにも見えます。

韓国ギャラップ社の最新調査によると、朴大統領の支持率は44%で、同じ発足期での李明博前大統領（52%）、盧武鉉元大統領（60%）と比べて、低い数字となりました。不支持の理由で最も多かった「人事の失敗」（29%）が支持率を大きく下げているものと推測されます。

PICK UP! 『賛同写真』を集めて、平和な統一祖国をつくろう!

冬期講習会も終わり、いよいよ本格的に2013年度の闘争モードに突入しました。

先月におこなわれた中央委員会を受けておこなわれる各本部の地方委員会を経て、4月革命53周年青年学生集会で、本格的な運動をスタートさせます。

☆4月革命53周年『6・15』『10・4』支持拡散運動」青年学生出帆式

4月14日(日) 関東地協・近畿地協

4月21日(日) 中部地協

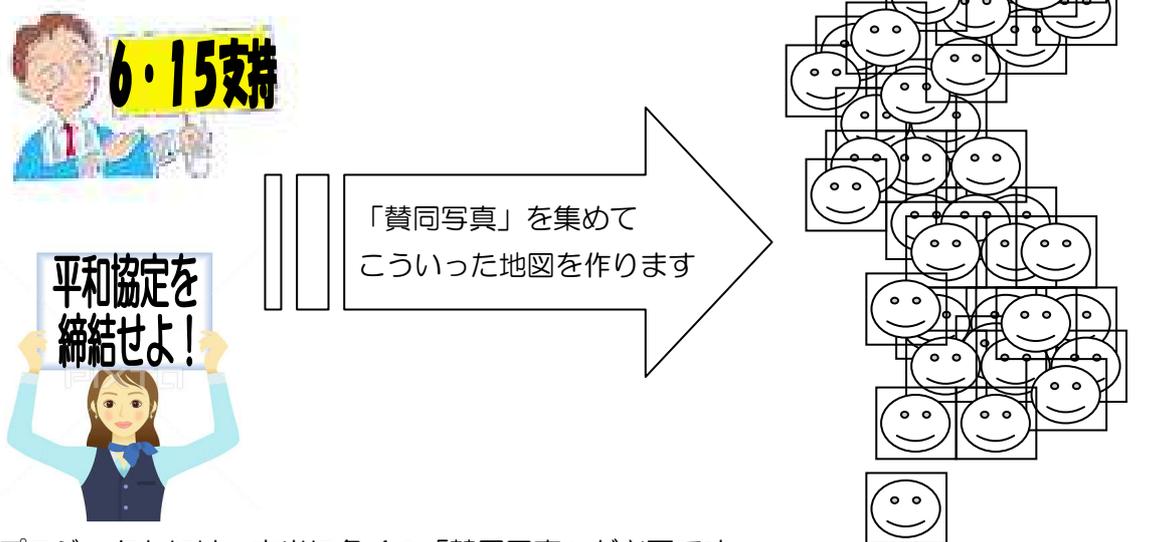
※韓青の結成に大きな影響を与えた4月革命の意義を学びながら、今年の運動課題を確認します!

☆「朝鮮半島の平和を願う人々による統一版図」の作成のためのプロジェクト

そして、今年度の韓青の一大プロジェクトが「Peace Photo Project」(仮称)です。

緊張する祖国状況の中で、韓青の周りにいる同胞や日本の方々に「『6・15共同宣言』の理念に基づいた朝鮮半島の平和」を共有しながら、そのメッセージを書いた写真を撮らせてもらい、その「賛同写真」をつなぐことで、平和を求める人たちで埋もつくされた統一祖国を作ろうというものです。

図解すると、このようになります。



このプロジェクトには、本当に多くの「賛同写真」が必要です。

もちろん、地域からもいっぱい集めます。みなさまのご協力をお願い申し上げます。

編・集・後・記



いよいよ始まった2013年度運動! 仮に「Peace Photo Project」(ピース・フォト・プロジェクト)と名付けていますが、もっとステキで、みんながワクワクして、それでいて心強い・・・、そんなネーミングを思案中です。檀君ハラボジにお祈りしながら、他力本願中です。《世》